

◆世界初! オリジナル版
ドルビー・ステレオ/ニュープリント
にて上映!

愛する妻よ…

私はいなくなっても、ミラー・サウンドが
永遠に君とともにいる。

音楽の歴史に新しいスタイルを創りあげるまでの
苦難の道と、妻に捧げた深い愛。
その輝ける生涯を描いた愛の名作



忘れ得ぬ名曲の数々!

- ★ムーンライト・セレナーデ
- ★真珠の首飾り
- ★イン・ザ・ムード
- ★茶色の小瓶
- ★セントルイス・ブルース・マーチ
- ★タキシード・ジャンクション
- ★ペンシルバニア6-5000
- ★アメリカン・バトロール
- ★ベイズン・ストリート・ブルース他

グレン・ミラー物語

ジェームス・スチュアート◆ジューン・アリスン

特別出演/レイ・アームストロング◆グレン・ミラー楽団
製作 アーロン・ローゼンバーグ◆監督 アンソニー・マン
脚本 バレンティン・ティビスノフ・スカー・プロットニー◆撮影 ウィリアム・ダニエルズ

The Glenn Miller Story

◆ユニヴァーサル映画
UIP配給

グレン・ミラー物語

The Glenn Miller Story



◆スタッフ

製作……アロン・ローゼンバーグ
監督……アンソニー・マン
脚本……バレンタイン・デービス
……オスカー・プロッドニー
……ウィリアム・タニエルス

◆音楽

作曲……グレン・ミラー
編曲……ヘンリー・マンシーニ
……ジョゼフ・ガーシエンソン

◆キャスト

グレン・ミラー……ジェームズ・スチュアート
ヘレン……ジュノー・アリスン
チャミー……ヘンリー・モリガン
ドン・ヘイネス……チャールズ・ドレイク
特別出演……ルイ・アームストロング
……グレン・ミラー楽団

ジャズの歴史に新しいスタイルをつくりあげ、世界中のジャズファンに親しまれ愛されたグレン・ミラー。
この映画は、彼が独自の演奏スタイルを確立するまでの苦難と、妻に捧げた深い愛との輝かしい生涯を描いた名画である。



この作品はこれまでの公開ではモノラル上映であったが、オリジナル版は既にステレオ・サウンドで録音されていた事がこのたびの再上映に際し判明した。今迄は劇場設備の関係でステレオ上映がなされなかったのだ。そのマスターテープもデッカ・レコードが保存していて、今回初めてステレオ・サウンドでの名曲の数々が楽しめる事になった。最近の劇場の音響設備の格段の充実でよりダイナミックなミラー・サウンドが楽しめるのは音楽ファンのみならず映画ファンにも一層の朗報である。

主演は、昨84年同じユニヴァーサル映画/CIC配給によって世界的にリバイバルされたヒットコック・フェスティバルの「裏窓」めまい「知りすぎていた男」等でおなじみの名優ジェームズ・スチュアート。妻ヘレンには「甦える熱球」「戦略空軍司令」等で理想的な夫婦像をジェームズ・スチュアートと共演してきた愛らしいジュノー・アリスン。また今は亡き名トランベッター、ルイ・「サッチモ」・アームストロングやジン・クルーバ、ベン・ボラックに往年の歌の女王フランセス・ラングフォード等の懐かしい顔ぶれの特別出演は、映像の永遠なる生命を改めて思い知らされて感慨ひとしおである。

ストーリー

青年グレン・ミラーは、貧しく苦しい生活の中で音楽に限りない情熱を燃やしていた。ロスの古ぼけた質屋のウインドーに置かれたトロンボーン。それは仕事があるとグレン・ミラーがうけ出しに来て、仕事が終わると、またバン代にばけてウインドーにおかれるのだった。そんなある日、質屋のおやじがベン・ボラック楽団がメンバーを募集している、というニュースを聞きこんできた。

演奏旅行で故郷のデンバーを訪れた時、グレン・ミラーは大学時代のガールフレンド、ヘレンと会った。仕事におくれてデートはあわただしいものだった。やがてグレンはニューヨークへ帰ってフリーとなった。しかし、ヘレンと一緒にいたわずかの時間の充実を考えると、これからも仕事にインスピレーションを与えてくれるのは、彼女の他にいない。と思った。そして長距離電話でのプロポーズ。結婚式もあわただしく初夜のベッド。そこにあらわれたのは親友のジン・クルーバで、むりやりにハーレムのクラブにつれてゆかれた。おりからそこに出演していたルイ・アームストロングらと、たちまちジャム・セッションがはじまりそれは夜が ажけるまで続いた。ヘレンはあきれて、ものも言えなかった。

グレン・ミラーは自分の編曲を生かすために、自分のバンドを結成したが解散。そんなときもなぐさめてくれたのはヘレンだった。

再出発したグレン・ミラー楽団のブラスの音の美しさは、ニュー・サウンドとして認められ、ホームンライト・セナードは全米で大ヒットし、やがて彼は、世界中で最も多忙な一人となった。

第二次大戦がはじまって応召されたが、將軍に認められて空軍バンドを編成して、前線慰問旅行に出かけた。1944年のクリスマスにはパリからアメリカ向けの番組を計画した。〈茶色の小瓶〉を完成し、電波にのせてヘレンに聞かせたかったのだ。しかし、グレン・ミラーの塔乗機は濃霧のなかで消息を絶った。自宅でヘレンは、涙をうかべてじっとラジオにきき入っていた。それは空軍バンドが演奏する〈茶色の小瓶〉であった。

